

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2018年11月号

NO. 301

TOPICS

本との出会い

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 鈴木 勇夫

MESSAGE P3

2019年度新会員制度に向けて

ATTENTION P4

2018年度日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー シチズン・オブ・ザ・イヤー
PRアワードグランプリ2018 今後の予定

ATTENTION P7

『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2019』を刊行

ATTENTION P8

PRプランナー資格認定制度／検定試験 1次試験受験申込は12月1日(土)から受付!

ATTENTION P9

広報PRアカデミー 2018「3次試験対応講座(冬期)」を12月4日から開講

ATTENTION P11

PRプランナー資格認定制度／検定試験 試験項目改訂対応新公式テキストを刊行

ATTENTION P12

PRプランナー資格認定制度／検定試験 117名 2018年度前期(PRプランナー誕生

ATTENTION P14

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

11月号 目次

11月～12月のスケジュール		— 1
MESSAGE(メッセージ)	本との出会い	— 3
ATTENTION(お知らせ)	2019年度新会員制度に向けて	— 4
“	2018年度 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー シチズン・オブ・ザ・イヤー PRアワードグランプリ2018今後の予定	— 7
“	『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2019』を刊行	— 8
“	1次試験受験申込は12月1日(土)から受付!	— 9
“	広報PRアカデミー 2018 「3次試験対応講座(冬期)」を12月4日から開講	— 11
“	試験項目改訂に対応した新公式テキストを刊行	— 12
“	117名の2018年度前期(第22回)PRプランナー誕生	— 14
BULLETIN(活動報告)	広報PRアカデミー2018 「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」を開講	— 17
“	広報PRアカデミー2018 今年度も「新任広報部長講座」を開講	— 18
“	2018年度 第2回「なでしこカウンスル」開催報告(会員限定)	— 19
VOICE of PR PLANNER	PRプランナーはおもてなしの心を持つ翻訳業	— 20
PR TREND(PRトレンド(関西))	日本一の酒どころ「KANSAI」	— 22
協会掲載記事	「PRSJ in Media」	— 24
協会掲載記事	(株)内外切抜通信社の研究論文が「日本広報学会研究奨励賞」を受賞	— 25

11月～12月スケジュール

第 23 回PRプランナー資格認定制度 検定 2次試験	日 時 : 11 月 11 日(日) 10:20～15:35 会 場 : TKP 渋谷カンファレンスセンター(東京) 毎日インテシオ(大阪) TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター(名古屋)
広報PRアカデミー2018 コミュニケーション・ケーススタディ講座	日 時 : 11 月 14 日(水) 19:00～ 講 師 : (株)井之上パブリックリレーションズ 横田和明氏 テーマ : 「企業広報スタディ」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
第 4 回PRプランナーMeet up	日 時 : 11 月 19 日(月) 16:00～21:00 会 場 : 「JFA ハウス」 テーマ : 第 1 部 社会貢献活動「夢の教室」体験 第 2 部 「JFA 元広報部長による講演」 講 師 : JFA こころのプロジェクト顧問(元広報部長)手嶋秀人氏
第 43 回スキル研究会	日 時 : 11 月 20 日(火) 17:30～18:30 会 場 : (株)オズマピーアール 講 師 : (株)電通パブリックリレーションズ 伊澤佑美氏 テーマ : PR をアップデートしよう! 『PR 思考』の標準装備で『手法』も自由に
第 21 回広報活動研究会	日 時 : 11 月 27 日(火) 14:30～17:00 会 場 : 日本発条株式会社横浜事業所 テーマ : 「日本発条株式会社(ニッパツ) 横浜事業所訪問」
第 196 回定例研究会	日 時 : 11 月 28 日(水) 会 場 : コンベンションルームAP秋葉原 講 師 : (株)伊藤園 顧問 笹谷秀光氏 テーマ : SDGs の最新動向とコミュニケーション ～SDGs は企業コミュニケーションをどう変えるのか?～
広報PRアカデミー2018 3 次試験対応講座	日 時 : 12 月 4(火)、12(水)、19(水)、26(水) 1 月 9(水)、15(火) いずれも 19:00～21:30 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「PRアワードグランプリ 2018」 PR アワードグランプリ表彰式	日 時 : 12 月 11 日(火) 17:00～20:00(予定) 会 場 : 時事通信ホール
広報PRアカデミー2017 コミュニケーション・ケーススタディ講座	日 時 : 12 月 13 日(木) 19:00～21:00 講 師 : ゼウス・コンサルティング(株) 代表取締役社長 兼 CEO 白井邦芳氏 テーマ : 「危機管理広報スタディ」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49

11月～12月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	(11 月度)	日 時	: 11 月 8 日 (木)	16:00～17:30
				一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館
	(12 月度)	日 時	: 12 月 13 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 公益財団法人 国際文化会館	
教育委員会	(11 月度)	日 時	: 11 月 16 日 (金)	12:00～13:30
		会 場	: 協会会議室	
資格委員会	(11 月度)	日 時	: 11 月 22 日 (木)	12:00～13:30
		会 場	: 協会会議室	
国際・交流委員会	(11 月度)	日 時	: 11 月 20 日 (火)	13:30～15:00
		会 場	: 協会会議室	
広報委員会	(11 月度)	日 時	: 11 月 22 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
顕彰委員会	(11 月度)	日 時	: 11 月 21 日 (水)	12:00～13:30
		会 場	: 協会会議室	
企業部会幹事会	(11 月度)	日 時	: 11 月 7 日 (水)	17:00～18:30
		会 場	: 協会会議室	
PR業部会幹事会	(11 月度)	日 時	: 11 月 20 日 (火)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
PRプランナー部会 幹事会	(11 月度)	日 時	: 11 月 16 日 (金)	19:00～21:00
		会 場	: (株)電通パブリックリレーションズ	

**「新春PRフェスタ 2019」を来年1月24日(木)に
六本木・国際文化会館で開催します！**

本との出会い

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事 鈴木 勇夫

3年前から顕彰委員会に参加し本年度から理事を拝命いたしました。

PRの知見や未来については諸先輩方が書いていらっしゃるのので、読書の秋にちなんで二冊の本との出会いについて書かせていただきます。これを読まれているPRパーソンの皆様は読書家が多いので、きっとたくさんのご推薦の本があると思います。

私事で恐縮ですが過去を振り返ると、たまたまのご縁がありPR業界に入らせていただきアシスタントAEから始めて20数年が経ちました。入社時はクリッピングやリリースなどのPR用語も知らず、担当したクライアントさんがBtoBのITだったことからTCP/IPやVoFRなどのIT用語も理解せず、早く一人前のPRパーソンにならなければとプレッシャーを感じ毎日悪戦苦闘していました。なんでこの業界に飛び込んでしまったのかと後悔する時もあったのですが、そんな時に出会った本が「置かれた場所で咲きなさい」（渡辺和子著、幻冬舎）でした。「どんなところに置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう」「どうしても咲けない時は無理に咲かずに根を下へ下へ降ろし次に咲く花がより大きく美しくなるように」という言葉に救われました。決してPR業界やPR会社が悪いわけではなく自分の能力不足で仕事や環境に馴染めないでいましたが、読了後は焦らず少しずつ根を張り小さい花を咲かせ続けてきました。花を咲かせるには、自己努力と同時に、周囲の方々のご支援やご助言という養分も多分にあったと感謝しています。その後、経験を積み、クライアントさんや記者さんから徐々に信頼を得て、クライアントさんからは直接指名されたり記者さんからは企画の相談を受けたり、黒子ではありますが社会やIT、デジタル社会の発展に寄与するような案件をいくつも手がけることでPRの楽しさややりがい、社会への貢献など実感するようになりました。

それからまた転機があり目標を意識することになりました。そんな折、親しい方に紹介された本が「5（ファイブ）」（ダン・ゼドラ著、海と月社）でした。概略は5年後に自分がどうなりたいかの目標を意識することで、たった一度の人生を大切にしていこうという内容です。これまで自分が担当する案件のPRプランでは短期/中長期目標を都度設定し達成する努力をしてきたものの、自分のことは後回しにしていたのですが、人生や仕事の目標を考える良いきっかけになりました。

現代は出版不況や活字離れと言われていますが、本は人生の味方であり豊かにしてくれるものと実感しています。きっと皆さんもそのような本に出会っていらっしゃると思いますので情報を共有できればいいですね。

さて、PRSJでのわたくしの目標ですが、「社会や企業における広報の価値を高める」活動を行っていきたいと考えています。高い目標ではありますが、着実に一步一步進めていければと思います。そのために顕彰委員会では、PRアワードやシチズン・オブ・ザ・イヤー、パーソン・オブ・ザ・イヤーの表彰を通じ、PR業界のみならず社会において広報の公益性やすばらしさをお伝えしていきたいと思っています。ぜひ皆様からのPRアワードへのエントリーを待ちたいします。よろしくお願い申し上げます。

2019年度新会員制度、どうなる？どうする？

会員みなさまには平素より、協会活動に多大なご理解、ご支援をいただき、感謝申し上げます。PRSJでは、急速なメディア環境、社会環境の変化の中、時代のニーズに適した会員・会費制度改正を2019年4月から施行いたします。

皆様に新しい会員制度をより理解していただくためにも、協会ニュースで会員制度のご案内とともにPR業、企業それぞれの立場での会員制度の活かし方やPRプランナー部会の活動について連載で紹介しております。

■会員種別検討特別委員会リレーエッセイ

第3回 「新会員制度について」

会員種別検討特別委員会
理事・PRプランナー部会 副部長
田畑 好崇

会員種別検討特別委員会にPR業の立場から参加いたしました。この度の制度改定の狙いの一つこの度の会員種別検討に、PRプランナーの立場から参加いたしました。

今回の会員制度改革では、PRプランナー資格取得者個人が、協会への入会、活動参加しやすい制度設計をめざしており、資格は取ったものの協会活動には参加していない方々や、異動等でPRの現場から離れてしまった方々のスキルの維持、地方にいる方々の活動参加の拠り所として等、PRプランナー資格取得者を中心に、PRを正しく理解した方が広く社会の各所で活躍の場を広げる推進力になると考えています。

2020年はオリンピックの年、協会としても40周年の節目を迎えますが、昨近、世界中が分断されつつある中、ますますパブリックリレーションズ、コミュニケーションの力が必要であり、私たち協会が、社会に対して果たす役割は増していると考えています。新たな執行体制でスタートした今年度ですが、前執行部からは、2020年、協会40周年に向け、①事業目的である「パブリックリレーションズの普及と発展」を踏まえ、社会構造の変化（少子高齢化、働き方の変化、グローバル化、メディア/コミュニケーションの変化）を踏まえた、PRのあり方の提示、理解の促進、業界/従業者のプレゼンス向上等、PRの未来構想を提示②現状は順調である協会事業だが、5年後を見据えた部会、委員会体制の強化・見直しといった協会活動・体制のあり方の提示、という大変重要かつ確かな申し送りがありました。また社会動向としては、世界有数の少子高齢化の進展、人手不足、国際比較における生産性の低迷といった課題に対応する働き方改革の取り組み、またこういった社会構造変化に対応するべく、副業の解禁や就業形態の多様化といった企業と従業員の関係の変化も起きると言えます。

これらを踏まえますと、今回の制度改革でフォーカスされているPRプランナーという枠に留まらず、広くPRパーソン個人を協会活動に取り込み、個人に立脚した構造に転換していくこと、また「パブリックリレーションズの普及と発展」、「社会構造の変化を踏まえたPRのあり方の提示、PRの正しい理解とプレゼンス向上」という重いテーマに対しても、しっかり取り組んでいく、またそのための体制を整えていくことが、社会変化への対応として求められていると考えています。

そのためには、PRプランナーのみならず広く「個人」の受け皿となり、活動に組み込んでいくという「事業」を担う新たな委員会組織や、個人へのシフトといった、協会の会員構成等、全体の「組織」のあり方の議論を担う委員会も必要になると感じています。今回の会員制度改革が、これら変革の端緒となることを願っています。

■特集：How to PRSJ Part. 3 PRプランナー部会編

PRプランナーの認知向上は「創発」がキーワード

2011年3月12日、東日本大震災の翌日にPRプランナー3次試験合格者向けの面接試験がありました（当時）。朝に中止連絡を受けましたがメールを見落としていた私は面接会場に出かけてしまいました。しかし協会では、私のような受講生のため、大変な中、面接の準備をされていて、無事面接を受け合格できました。

その後、2011年5月に開催された、第4回PRプランナー交流会に参加しました。初めてPRプランナーの方々と交流し、当時、株式会社大京の広報部に所属していた私は、この時参加者の広報活動への関心の高さに刺激を受けたことが、現在のPRプランナー部会に関わるきっかけとなりました。

2011年11月に開催された第5回交流会から準備委員として企画に参画することになりました。その後2015年6月に現在のPRプランナー部会が発足し、それまで準備委員会で行っていたPRプランナー交流会等を引継ぎ、PRプランナーによるPRプランナーのためのイベント等を推進することとなりました。

私の最初の企画は2016年12月に日本通運様にご協力いただき、最新の研修施設（フューチャーセンター）において、「PRにイノベーションを起こそう！～既成概念に捉われない広報担当とは～」をテーマにワールドカフェを実施しました。

アンケートでは、「普段聞けない話が聴けた」「関係構築の基本を思い出した」「もっと広報は変われると実感した」等の言葉が寄せられました。

翌年の2017年6月に第2回目のワールドカフェを開催し、現在は2018年11月に向け、日本サッカー協会とコラボ企画を練っています。



PRプランナー向けの企画を考え実行することは資格者である自分自身にも返ってくるためやりがいを感じています。部会は違う業種のメンバーで構成されているため、企画においても「創発」が起こりやすく、話しているうちに面白味が増す企画となります。

今後はPRプランナーの交流に留まらず、PRプランナーの活躍を世に広めるイベントを「創発」を起こしながら企画したいと考えています。一緒にやりたいと思う方、ぜひご協力お願いいたします！



PRプランナー部会幹事
コア・エリート株式会社
代表取締役社長 丸山 寛之

PRプランナー部会・PRプランナーフォーラム企画 担当として得た貴重な経験について

PRプランナー部会メンバーとして2016年よりPRプランナーフォーラムの企画推進を、部会メンバーと共に担当させていただいております。活動目的として、PRプランナー資格取得者に向けて最新かつ、より高度なスキル習得を促進し、プロフェッショナルの育成を目指すことを掲げています。企画時は、PRプランナー資格保有者である自分自身が「今、知りたいこと」について、意見を出し合い企画を進めています。具体的には、1年に4～5回、東京と大阪を会場とし、講師による講演やワークショップ、視察会といった形式で実施しています。個人的には、2016年の大阪転勤を機に関西地区での活動推進に力を入れて参りました。

これまでの企画で特に印象に残っているのは、2017年に東京で開催した企画で、建築家の土谷貞雄氏と(株)ヤマハミュージックジャパン おとまちプロデューサー、佐藤雅樹氏をお招きし、トークセッションを開催した企画です。お二人は、実務として広報担当ではないものの、



それぞれが組織体とパブリックの間で情報発信をされ、周囲を巻き込んでいく活動をされておりました。まさに、広報のスペシャリストと言うべき活躍をされており、PRパーソンとしての役割の重要性や可能性を再認識する場となりました。



また、関西地区では、読売新聞で経済担当記者として活躍された広報部長、戸田博子氏によるご講演や、ガンバ大阪の営業部長、伊藤慎次氏にJリーグにまつわる経営者視点のお話や地域活動のご講演とサッカー専用スタジアムの視察、などの企画が印象的でした。



こうした活動を通じて、魅力的な講師の方々にご直接お話を伺えることや、業種も立場も異なるメンバーと共同で企画を運営・推進することが大きな糧となります。また、イベントの場に情報や交流を求め、自らを高めようと集まる、同じ資格保有者の方々から多くの刺激を頂けることが、新たな挑戦へのモチベーションに繋がっています。



PRプランナー部会幹事
パナソニック ホームズ株式会社
宣伝・広報部 古矢直美

2018年度「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」 「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」 「PRアワードグランプリ 2018」今後の予定

顕彰委員会

今年度も「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」と「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」「PRアワードグランプリ 2018」を顕彰いたします。

「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、顕彰委員会で絞り込んだ方々を審議し「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」は11名、「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は10件に候補を絞り、10月26日（金）に会員の皆様に受賞候補者(団体)投票お願いのご案内をいたしました。

「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」はパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性や好感度、発想の斬新さなどを観点に、その年に経済活動、文化・スポーツ、社会・教育などの分野でPR（パブリックリレーションズ）の視点から、この年に最も活躍した人物を、「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」は長年にわたり社会や業界の発展に寄与し、奨励に値する実務を実践した上で、広報・PRの観点からもその独創性が顕著である人物、またはそのグループ（団体）を、表彰するものです。昨年からWeb投票も導入し、簡単にご投票いただけるようになりましたので会員の皆様におかれましては、是非下記URLからご投票くださいますようお願いいたします。投票締め切りは11月16日（金）です。

「日本PR大賞PRパーソン・オブ・ザ・イヤー」 <https://39auto.biz/pr-shikaku/touroku/person.htm>

「日本PR大賞PRシチズン・オブ・ザ・イヤー」 <https://39auto.biz/pr-shikaku/touroku/citizen.htm>

今後の進行として、投票結果を基に、11月度の顕彰委員会で両部門の候補者を最終決定し、各候補者へ折衝、12月度理事会で受賞者の承認という流れで進めていく予定です。また、受賞者は1月に開催いたします「新春PRフェスタ」にお越しいただき、表彰式を行う予定です。

「PRアワードグランプリ 2018」は10月24日（水）にエントリー受付を締め切り、グランプリ選出審査を11月13日（火）に開催いたします。

審査委員長のもと、9名の審査委員で審査団を構成。審査委員全員が一堂に会して議論形式の審査会を開催。部門横断で全エントリーに対し厳正な審査を行い、「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の各賞を決定いたします。なお、顕彰委員会及び審査団の協議により、上記の賞以外の表彰を行う場合もございます。

12月11日（火）に実施される表彰式でシルバー以上の受賞エントリーについては、プレゼンテーションしていただきます。

日時：2018年12月11日（火）17：00～20：00（予定）

会場：時事通信ホール

表彰式への聴講申し込みは11月中に会員のみなさまにメールでお知らせする予定です。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2019』を刊行

広報委員会

「PR手帳」は協会設立以来継続して発刊され、今年度で39回目を迎えます。
11月22日(木)に書店店頭に並ぶ予定です。

この「PR手帳」は、最新のPR・マスメディア情報を満載したデータ集であることから、マスコミへのアプローチに不可欠の一冊、“情報源バイブル”として、広報・PR、宣伝・販促、IR・CSRの担当者を中心に、幅広く活用されています。

内容は毎年刷新して実務により役立つ内容を充実させ、最新データに更新しています。

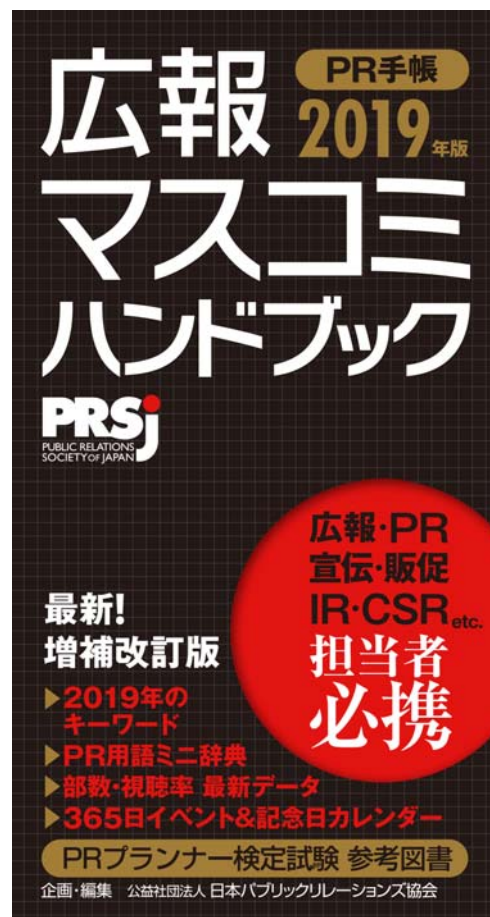
●主要コンテンツと掲載データ：

今を読み解くkeyword／知っておきたいFact data／「パブリックリレーションズ」の解説／部数・視聴率最新データ／PR・IR用語ミニ辞典／PR関連団体／企業の文化施設／主要メディア連絡先一覧／主要サイト一覧／記者クラブ／官公庁・各種団体／イベント会場／2019年記念日カレンダーなど

●価格：2,000円(1,852円+税)

(会員は1,100円(1,019円+税)表紙カバーはありません)

●販売：協会事務局、首都圏・大阪・名古屋をはじめ、福岡・札幌等、全国主要書店で広く販売されています。



表紙カバーデザイン

事務局では随時注文を承っており、皆さまのご利用をお待ち申し上げます。

なお、協賛広告のご出稿をいただきました会員会社各位には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

※『広報マスコミハンドブック(PR手帳)2019』を刊行のニュースリリースを11月中旬ごろに配信する予定ですので、発表までは情報の取り扱いにご注意ください。

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第24回「PRプランナー資格認定検定試験」

1次試験受験申込は12月1日(土)から受付！

～ 試験会場は、東京・大阪・福岡 ～

資格委員会

第24回となるPRプランナー資格認定検定試験1次試験（実施：2019年3月3日(日)）を、東京・大阪・福岡会場にて実施します。

日本パブリックリレーションズ協会が認定する「PRプランナー資格認定制度」は、広報・PRの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は1次から3次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・PRに関する高い専門能力の保有を認定する「PRプランナー」資格を取得することができます。本制度は2007年より発足しすでに22回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した2,542名（11月1日現在）のPRプランナーが一般企業、PR会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験申込期間は、1月25日（金）までとなっておりますので、皆様のまわりにPRプランナー資格の取得を目指される方がいらっしゃいましたら、本試験についてご紹介ならびにご推奨を賜れば幸いに存じます。

<PRプランナー資格認定制度／検定制度 1次試験 実施概要>

試験日	2018年3月3日(日) 試験は東京・大阪・福岡会場ともに3月3日(日)午前中に同時実施・終了する予定です。
受験申込期間	2018年12月1日(土)～2019年1月25日(金)
受験申込方法	<p>受験申込から合否通知までの手順は次の通りとなります。</p> <p>※前回(第23回)と同様に、受験申込は完全にペーパーレス化となり、「PRプランナー資格制度」Webサイトからお申込となります。</p> <p><受験申込手順></p> <ol style="list-style-type: none"> ①受験種別と受験料をご確認ください ②受験料をお振込みください ③画像データをご用意ください ④PRプランナー資格制度Webサイトにアクセスします ⑤受験申込フォームに入力 入力内容：氏名、受験種別、試験会場、受験票・合否発送先住所、生年月日、メールアドレス、受験料の振込日と振込人名、等 アップロード内容：受験者ご本人の写真データ ⑥入力確認画面を経て、受験申込完了
受験票送付	2019年2月15日(金) 発送
合否通知送付	<p>2019年3月15日(金) 発送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、合否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2次試験ならびにPRプランナー補認定申請のご案内を、メールでも3月18日(月)にお送りします。

<試験時間>

09時30分	各試験会場に入館できます
10時20分	指定の教室・座席にご着席ください
10時25分	注意事項伝達・試験問題配布
10時40分	試験開始
12時00分	試験終了

<試験会場>

東京会場 東洋学園大学 本郷キャンパス 文京区本郷 1-26-3	大阪会場 毎日インテシオ 大阪市北区梅田 3-4-5	福岡会場 AQUA 博多 福岡市博多区中洲 5-3-8
		
<ul style="list-style-type: none"> ・JR線、都営三田線「水道橋駅」徒歩7分 ・丸ノ内線、都営大江戸線「本郷三丁目駅」徒歩4分 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR大阪駅から西梅田地下歩行者道を通り、徒歩約15分 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄空港線「中洲川端駅」徒歩4分

※資格検定試験の詳細は、下記URLのPRプランナー資格Webサイトをご覧ください。

<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



広報PRアカデミー 2018

「3次試験対応講座(冬期)」を12月4日から開講

～第23回PRプランナー認定3次試験の受験者に最適～

教 育 委 員 会

協会では、来る12月4日から6回にわたって「PRプランナー3次試験対応講座(2018年度冬期)」を六本木アカデミーヒルズ49で開講いたします。

本講座はPRプランナー資格取得を志す3次試験の受験者を対象に開講します。講師にはPRプランナー試験を熟知した広報・PR実務の専門家を起用、講座は、「ニュースリリースの作成」、「広報・PR計画の立案作成(コーポレート課題・マーケティング課題)」の各分野を対象に、それぞれ2週にわたる講義と演習で構成されています。

第1週の講義で学んだポイントについて、第2週の実習を通じて的確に習得できるため、専門的なスキルの有無を問われる3次試験に向けた、最も効果的な受験対策となります。



また、インターネットの利用により、場所を選ばず任意の時間に受講できるWeb受講サービスを提供いたします。本サービスにより、遠隔地に居住の方、仕事に追われご多忙な方でも、パソコンやスマホなどから都合のよい時間に、また理解できるまで何度でも履修することが可能です。

受講の詳細については、以下の協会Webサイトをご参照ください。

https://event.prsj.or.jp/prp/prp3rd_2018winter

■PRプランナー3次試験対応講座(2018年度冬期)の概要

日 程	講座テーマ	講座概要	講 師	受講料 (消費税込)
12月4日(火)・ 12月12日(水)	「ニュースリリース の作成」	課題に基づくニュースリリース の作成に必要な知識、スキル を講義と演習で学ぶ	青田浩治氏 (株)電通パブリック クリレーションズ)	会場受講 +Web受講 PRSJ 会員 社員 32,400 円 PRプランナー (准・補) 43,200 円 一般 48,600 円 Web受講のみ 会員 PRプランナー ・一般とも 32,400 円
12月19日(水)・ 12月26日(水)	「広報・PR計画の 立案作成 (コーポレート課題)」	コーポレート課題に基づく広 報・PR計画の企画立案に必要 な知識、スキルを講義と演習を 通じて習得する	高野祐樹氏 (株)井之上パブリ ッククリレーション ズ)	
1月9日(水)・ 1月15日(火)	「広報・PR計画の 立案作成 (マーケティング課題)」	マーケティング課題に基づく広 報・PR計画の企画立案に必要 な知識、スキルを講義と演習を 通じて習得する	野村康史郎氏 (株)オズマピーア ール)	

※「PRSJ会員社員」の料金は、法人正会員の会社・団体等の社員・職員、もしくは個人正会員・個人賛助会員ご本人様のみが対象となります。

(事務局 真部)

PRプランナー資格認定制度／検定試験

試験項目改訂に対応した新公式テキストを刊行 ～新試験項目は2019年8月実施の1次試験から適用～

資格委員会／試験専門委員

PRプランナー資格認定制度／検定試験は、2007年の実施から10年以上が経過しました。この間、国内外における社会経済環境の変容は大きく、特にインターネットの普及による社会、経済、経営など、諸分野での変化は、広報・PRの分野にも大きな影響をもたらし、広報・PRパーソンに求められる考え方や知識も変わりつつあります。

そこで、社会の情報化、グローバル化、ガバナンスの重視する変化に対応すべく、1次試験と2次試験の試験項目を改訂いたしました。新しい試験項目は、2019年8月に実施される1次試験、2019年11月に実施される2次試験から、それぞれ適用となります。なお、それまでの全ての試験（2019年7月実施の3次試験まで）は、現在の試験範囲での出題となり、現行の『広報・PR概論』『広報・PR実務』が公式テキストとなります。



また、試験項目の変更に伴い、公式テキスト『広報・PR概説』（1次試験対応）、『広報・PR実践』（2次・3次試験対応）の2冊を10月1日に同友館より刊行しました。

新テキストは、2019年8月に実施される1次試験と、2019年11月に実施される2次試験に対応しており、それぞれ1次試験および2次試験範囲となる、経営、CSR、IR、危機管理からマーケティングとブランド・マネジメント、広報・PR実務まで、幅広い範囲にわたる試験分野の内容をカバーし、受験準備を効果的かつ効率的に行うことが可能となります。

協会では会員向けに優待価格での販売を2019年3月に計画しています。優待販売の詳細については、会員向けのメール等にてご案内いたします。

最後となりましたが、ご多忙の中、ご執筆、ご監修いただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

※PRプランナー資格認定制度／検定試験の試験項目の詳細については、資格制度Webサイトをご参照ください。

(<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>)



- ・新・試験項目(1次): > 資格認定制度について > [新・試験項目\(1次\)](#)、
- ・新・試験項目(2次): > 資格認定制度について > [新・試験項目\(2次\)](#)
- ・新・公式テキスト: > 試験対策 > 公式テキスト/[参考図書](#)

PRプランナー資格認定制度／検定試験 新・公式テキスト

試験	1次試験対応テキスト	2次・3次試験対応テキスト
仕様	 <p>広報・PR 概説 2019-2020 年度版</p> <p>定価：本体 2,400 円 + 税 仕様：A5 サイズ、338 ページ</p>	 <p>広報・PR 実践 2019-2020 年度版</p> <p>定価：本体 2,600 円 + 税 仕様：A5 サイズ、363 ページ</p>
編著	(公社) 日本パブリックリレーションズ協会	
発行	同友館	
発行日	2018年10月1日	
目次	<p>第1章 広報・PRの基本</p> <p>第2章 企業経営と広報・PR</p> <p>第3章 広報・PR活動のマネジメント</p> <p>第4章 コミュニケーションの基礎理論</p> <p>第5章 メディアリレーションズ</p> <p>第6章 マーケティングの基礎理論</p> <p>第7章 マーケティングと広報・PR</p> <p>第8章 ブランドの基礎理論</p> <p>第9章 CSR (企業の社会的責任)</p> <p>第10章 インターナル・コミュニケーション</p> <p>第11章 IR(インバスターリレーションズ)</p> <p>第12章 グローバル広報</p> <p>第13章 危機管理広報</p> <p>第14章 行政・団体等の広報・PR</p> <p>※各章末に参考問題付</p>	<p>科目 A 企業経営と広報・PR</p> <p>第1章 経営環境の変化と広報・PR</p> <p>第2章 CSRと広報・PR</p> <p>第3章 インターナル・コミュニケーション戦略</p> <p>第4章 IR活動の実務</p> <p>第5章 グローバル広報の実務</p> <p>第6章 危機管理広報の実務</p> <p>科目 B マーケティングと広報・PR</p> <p>第7章 マーケティング・マネジメント</p> <p>第8章 マーケティング・コミュニケーションの実務</p> <p>第9章 マーケティング・コミュニケーションの潮流</p> <p>科目 C コミュニケーションと広報・PR実務</p> <p>第10章 メディアの種類と特性</p> <p>第11章 メディアリレーションズの実務</p> <p>第12章 自社メディアの活用</p> <p>第13章 広報・PR戦略立案の実務知識</p> <p>3次試験対応</p> <p>第14章 3次試験「課題B」の対応策と参考解答例</p>
	<p>※2018年11月に実施される第23回2次試験から、2019年7月に実施される第24回3次試験までは、現在の試験項目と、公式テキスト(1次試験は「広報・PR概説」、2次・3次試験は「広報・PR実務」)からの出題となります。</p>	

PRプランナー資格認定制度／検定試験

117名の2018年度前期(第22回)PRプランナー誕生 PRプランナーは2,542名

資格委員会／試験専門委員

今年7月に実施された第22回PRプランナー資格認定検定試験／3次試験の合格者124名のうち117名が、9月に行われた書類審査を経て、PRプランナーの資格を取得されました。

ここに、長期間にわたるご奮闘に敬意と祝意を表してご氏名を公表させていただきますとともに、今後のさらなるご研鑽とご活躍を期待いたします。

2018年度前期（第22回） PRSJ認定PRプランナー

(50音順／敬称略)

◇個人名所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

今井 康貴 ((株)NTT ドコモ)
 植木 映子 (朝日新聞社)
 生形 祐子 (ビルコム(株))
 大石 竜太 (大成建設(株))
 岡崎 健浩 (日清食品ホールディングス(株))
 岡澤 仁美 ((株)フォレストコーポレーション)
 岡村 有希子 ((株)乃村工藝社)
 岡本 玲子 ((株)読宣)
 小澤 修二 ((株)電通テック)
 小田野 良平 ((株)エンジェリーベ)
 甲斐 三省 (ウシオライティング(株))
 勝倉 歩 ((株)NTT データ)
 岸 美沙子 ((株)テレコムスクエア)
 黒田 真弘 ((株)エイムクリエイツ)
 河野 優子 ((株)電通テック)
 小嶋 純平 ((株)電通)
 佐藤 文子 ((株)電通パブリックリレーションズ)
 澁谷 歩 ((株)電通テック)
 清水 啓司 ((株)電通テック)
 清水 俊宏 ((株)TM オフィス)
 白沢 由紀 (学校法人明星学苑 明星大学)
 菅 和也 ((株)電通パブリックリレーションズ)
 菅原 さやか ((株)フロンティアインターナショナル)
 高梨 真一 ((株)電通テック)
 高野 絵理佳 ((株)アクティオ)
 壇 俊光 (北尻総合法律事務所)
 富田 孝行 ((株)電通東日本)
 中林 章 ((株)ハコビーヤ)

中村 大志 ((株)エムスリー・カンパニー)
 西川 圭介 ((株)朝日新聞社)
 野田 かじと ((株)電通パブリックリレーションズ)
 芳賀 輝 ((株)電通パブリックリレーションズ)
 長谷川 菜美 (トータル・コミュニケーションズ(株))
 早川 有紀 ((株)ネクソン)
 針山 愛梨 (凸版印刷(株))
 藤平 直人 (デクセリアルズ(株))
 藤本 貴久 ((株)TM オフィス)
 松浦 玲子 ((株)大和証券グループ本社)
 松田 慶光 (学校法人聖学院)
 松永 宗和 (日本放送協会)
 満保 修一 (札幌市役所)
 矢島 慶佑 ((株)マテリアル)
 山岡 絵奈 (リバーホールディングス(株))
 山岡 礼 ((株)丹青社)
 山田 文 (加賀市役所)
 山田 ゆかり (キリンビール(株))
 渡辺 和哉 ((株)電通パブリックリレーションズ)
 渡辺 宏

◇個人名所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

浅野 莉理 (一般企業(広報・PR関連部署))
 飯塚 陽子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 磯部 真也 (PR関連会社)
 大木 将里 (PR関連会社)
 小野田 真奈美 (一般企業(広報・PR関連部署))
 鎌田 彩子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 小泉 洋子 (一般企業(広報・PR関連部署))
 後藤 寛道 (各種団体)
 鈴木 真美 (一般企業(広報・PR関連部署))
 妹尾 福太郎 (PR関連会社)
 寺地 昂平 (その他)
 中込 咲綾 (その他)
 中島 実 (一般企業(広報・PR関連部署))
 中武 千裕 (一般企業(広報・PR関連部署))
 淵上 晃穂 (一般企業(広報・PR関連部署))
 向井 貴之 (一般企業(広報・PR関連部署))
 森下 浩明 (一般企業(広報・PR関連部署))
 渡部 昭 (一般企業(広報・PR関連部署))

◇所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

朝日新聞社 … 女性1名
 (株)エイレックス … 女性1名
 (株)タチエス … 男性1名
 (株)中電工 … 女性1名

(株)電通テック … 男性1名
(株)電通パブリックリレーションズ … 男性3名、女性1名
(株)トークス … 男性1名
プルデンシャル生命保険(株) … 男性1名

◇所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

PR関連会社 … 女性1名
一般企業(広報・PR関連部署) … 男性4名、女性5名
一般企業(その他の部署) … 男性1名、女性1名
教育機関 … 男性1名
自治体・行政機関 … 男性1名
その他 … 女性1名

※上記PRプランナーの皆様には事前に掲載の承諾を得ております。

広報PRアカデミー2018

「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」を開講 ～秋期の新任者向け研修としては初めて開催～

教育委員会

協会では、さる10月11日、六本木アカデミーヒルズ49で新任者向け研修としては初めてとなる「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」を開講しました。今まで協会では新任者向けの講座としては、毎年4月に「広報・PRスタートアップ講座」を定期開催していましたが、秋からの新任者向け研修への要望に応え、開催したものです。

本講座の講師には、クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社の雨宮和弘氏、同社コミュニケーションコンサルタントの久寿米木智日人氏が登壇しました。講座では、1980年代以降における広報・PRを振り返り、マスメディアを主な対象とした「メディアリレーションズ」の時代、インターネットの登場と普及を基盤としてWebをはじめとするデジタルメディアを活用の始まった「デジタル広報」の時代における特徴や手法について再確認しました。そして、情報の流通構造が大きく変化した最近のメディア環境において両方の特徴を効果的に生かす「ハイブリッド広報」の必要性や考え方などについて、多彩な企業の実例などを交えた解説が雨宮講師により行われました。

昼食の休憩をはさんだ午後には久寿米木講師も登壇し、グループによるワークショップを通じてその特徴や手法を確認し、今日における広報の立脚点はどうあるべきか「ハイブリッド広報」として受講者に習得していただきました。

37名に及ぶ受講者は朝から夕方まで続く全日の講座を熱心に受講する姿がみられました。開講の当初は相互での語りもなく緊張気味であったにもかかわらず、講座が進みワークショップで議論するなかで次第に打ち解け、一日の講座が終了する頃には名残をおしむような笑顔が溢れる会場となりました。広報・PRの基本を学ぶ一日として充実した講座となりました。

協会では、新任者向け研修として、来年4月にも「広報・PRスタートアップ講座」を開講する予定です。企画の詳細については、来年2月下旬を目途として協会Webで公開します。

(事務局 真部)



広報PRアカデミー2018

今年度も「新任広報部長講座」を開講 ～10月16日、今年も多くの新任広報部長が参加～

教育委員会

10月16日、協会では、「広報PRアカデミー」では昨年度に引続き第2回となる「新任広報部長講座」を、東京・内幸町の日本記者クラブを会場として開講しました。

「新任広報部長講座」は、着任から間もない広報部門の上級管理職を受講対象として特化し、上級管理職として就任後に直面する数々の悩みについて共有しながら講師とともに解決策を探ることを目的としています。今年も、広報部長職に就かれています13名部長が受講者として参加されました。



今年度は講師として、オムロン株式会社 執行役員グローバルインベスター&ブランドコミュニケーション本部長の井垣 勉 氏、旭化成株式会社 理事 購買・物流統括部長（前広報室長）の山崎真人氏、朝日新聞社 社会部次長（デスク）三橋麻子氏、MSD 製薬株式会社 執行役員 広報部門統括 山下節子氏）の4氏をお招きしました。また講座を進行し内容的なポイントを引き出す役割を持つモデレーターは、株式会社井之上パブリックリレーションズ代表取締役社長兼COOの鈴木孝徳氏が担当されています。

まず、オムロンの井垣氏が先頭を切って登壇。「オムロンの広報戦略～経営機能としての『役割』、『責任』、『存在価値』～」をテーマに広報と経営の関係性について語り、経営の一翼を担う広報部長の役割や責任、なぜ広報部長が必要なのか、企業理念の浸透のために同社が毎年実施するグローバルなアワード「TOGA (The OMRON Global Awards)」などの事例を交えて紹介しました。

続いて、旭化成の山崎氏がマイクを握り、広報部長として自らの体験した危機管理の実例について生々しく語り、そのなかで得た広報部長としての対応の要諦について、迫力に溢れた講義が行われました。

3番目には、立場を変えて朝日新聞社の三橋氏から朝日新聞社社会部の概要や社会部記者の取材に向かい合う姿勢や取材に対する考え方、記事をどのように構成するのか、何をもって重大事案とするのかなど、社会部におけるご自身の体験に基づく様々な事例を交えてお話しされました。

最後にはMSDの山下氏が登壇、同社が何をすべきかを示す経営理念を象徴する動画を皮切りとして、社名変更に向けてどのような取組みを進めてきたのかなどについて語られています。

今回は、各講師の迫力ある語りぶりに圧倒されたかのように、静かに聴き入る受講者の姿が印象的な講座となりました。

講義の終了後は隣室に移動、懇親会となりました。懇親会では講師や受講者相互のコミュニケーションも弾み、名刺交換から始めお互いの体験交換など話の輪も広がりました。約1時間ほど交流の輪が広がる和やかな雰囲気なかで、滞りなく懇親会も幕を閉じることができました。今回の講座を通じて、広報部長として新たな気づきを得た受講者それぞれの今後の広報部長としての活躍が期待されます。

(事務局・真部)

会 員 限 定

2018 年度 第2回「なでしこカウンシル」開催報告

常笑の人、@cosme山田メユミさんが語る成長とは

国際・交流委員会

10月23日(火)、アークヒルズクラブで「2018年度第2回 なでしこカウンシル」が開催され、27名の広報・PRウーマンたちが参加しました。

今回は講師として日本最大の化粧品と美容の総合サイト「@cosme(アットコスメ)」を運営する株式会社アイスタイル・取締役の山田メユミ氏をお招きし、「会社とサービスと自分の成長」をテーマにお話いただきました。



PRプランナーはおもてなしの心を持つ翻訳業

株式会社東京地図研究社
佐藤昌貴

2017年7月アメリカサンディエゴ。食い入るように私のポスターを見て、笑顔で称賛の言葉をかけてもらえたときはしめたと思ったものです。

この時私は、地理情報システムソフトウェアの最大手Esri（エスリ）の巨大イベントESRIユーザーカンファレンスに参加していました。勤務するわが社がソフトウェアの販売代理をしている関係で、本場で最新情報を得るために十数時間空を舞ったのでした。

そしてもう一つのミッションがこのイベントで同時に開催されるマップギャラリーと称されるポスターセッションに出展することでした。私がアメリカに持ち込んだのは「日本における鳥の名前が付く地名と地形との関係性」と題したポスター。中身はその年の干支にちなんで“鳥”の名前が入った地名が地形とどういう関係があるのか、そして各地方で最も多い鳥の種類は何かをイラストと地形表現を交えてビジュアル化しました（もちろん英語表記）。

コンセプトは英語圏の人々に日本の国土と鳥をテーマとした地名との関係性とが地図を通じてわかりやすく伝わること。それをコアに制作していきました。戦略通り、会場に訪れた多数の国の人々（地理・地図好きな人たちだが）に注目を浴び、ICA and IMIA Recognition of Excellence in Cartography Award 賞をいただきました。私だけでなく、コンセプトを理解しデザインしてくれたスタッフ。拙い英語をチェックいただいた社長、送り出してくれた社員全員の勝利と思っています。

さて、現在地図を作る会社（正確に表現すると地図調製業）に属している人間が、なぜPRプランナー？と思う方もいらっしゃるかもしれません。実は、制度がスタートした頃、私は広告会社に勤務していました。その頃広報・広告業界に資格はなく、実力としての証が得たく、私の心は揺さぶられました。

第二回の試験に合格し（第一回は申し込み期日を間違える失態）、晴れてPRプランナーになることができました。

縁あって、現在の会社に就職し、さて自分のスキルをどのように発揮するべきかと思案しましたが、幸いなことにチャンスを得て、営業と広報部門を担当する部署に配属。会社案内やノベルティ、SNSなどを担当しました。

地図調製業は測量技術と切っても切り離せない関係です。専門用語や数字が飛び交う世界。飛び込んでわかったことは、極めて専門的でテクニカルな世界であること。対外的な発信をする場合に今まで培ったノリも含め、わかりやすく、楽しい感じを醸成することを心掛けました。

いわゆるキラーコンテンツを有しない中小企業が、いかにセルフプロデュースするのか、関係学会や同業種のイベントブース出展では、気をてらいすぎた出し物をしてしまったかなと反省半分、今までにないことができたのではないかと考えています。

カーナビに始まり、スマホの地図アプリや乗り換え案内アプリなど位置情報に関わるコンテンツに誰もが簡単に触れ合える時代がやってきました。位置情報のベースを支えている自負はあるのですが、まだまだセルフプロデュースできていないのは事実で、有資格者として自社への貢献をさらにしていきたいと考えています。

お世話になった経営コンサルタントの方がこう言いました「経営（けいめい）はおもてなしである」と。私はこの言葉に感銘を受け、コミュニケーションを司る者として、おもてなしとはわかりやすく伝えることであると考えました。それは現在の職場でも変わることはありません。

私は思います。PRプランナーはおもてなしの心を持つ翻訳業であると。

今もこれからも、未知のものをいかにわかりやすく、伝えたい側の意図を確実に伝えられる力量が試される資格ではないかと考えています。

<コラム関西の風>

日本一の酒どころ「KANSAI」

月桂冠株式会社
総務部広報課長 田中 伸治

日本酒の主産地は関西

近畿地方は、日本酒の出荷量で全国の約半分を占めている。その中心は、兵庫の灘、京都の伏見であり、関西には酒造業が、醸造機械や容器製造などの関連産業と共に集積している。灘は江戸時代の半ば頃から台頭、東西約 20 数キロの海岸沿いに酒屋が集中し、樽廻船で直送できる立地の良さから江戸の市場を席捲した。

京都では平安時代に朝廷の造酒司で、高度な手法により酒が醸されていた。その後、市中では金融業との兼業による土倉酒屋が豊富な資金力をもとに酒を商い、室町時代、1425 年の史料によると京の酒屋は 342 軒を数えるほどに繁栄を極めた。

京都盆地南端の伏見では、安土桃山時代に豊臣秀吉が伏見城を開き、城下町には酒造業者が集積した。私共の月桂冠は、徳川三代将軍・家光の時代、1637（寛永 14）年に、屋号を笠置屋として創業、以来変わらず伏見に本拠を置き 381 年の時を刻んできた。伏見の酒造業は歴史こそ古いものの、江戸期はまだ産地として小規模で、内陸という地理的条件から、旅人や地元の人たちに商うことが中心だった。

その歩みは順風ばかりでなく、飢饉による酒造りの制限などで、1657（明暦 3）年の酒屋名簿に記された 83 軒が、江戸時代後半の 1785 年には 28 軒まで減少、さらに 1868 年に発生した鳥羽伏見の戦いで、町中の多くの民家や商家、酒蔵が被災した。1657 年の名簿に記された酒屋の中で、この戦いを越えて継続しえたのは、笠置屋と北川本家の 2 軒だけであり、長期の事業継続は難しかったことがうかがえる。そして、日本が近代化を進めた明治期、酒造りに科学技術を導入することで品質を飛躍的に高め、鉄道輸送への移行により販路を全国に開いたことで、伏見の酒造業は急成長する。その揺籃に大きな役割を果たしたのが、月桂冠 11 代目の当主、大倉恒吉である。

近代伏見酒の揺籃に大きな役割、大倉恒吉の伝記を漫画化



大倉恒吉の伝記を 10 のエピソードにまとめた英語版の 4 コマ漫画「Gekkeikan The Life of Tsunekichi Okura」を、今秋、自社サイトで公開した。月桂冠「中興の祖」である恒吉が、数々の挑戦により、その一代で事業規模を 100 倍に拡大し、京都・伏見の酒を全国に広めた経緯を

紹介しており、創造と革新の継続により伝統を堅持してきた歴史をわかりやすく表現している。

大倉恒吉は1874（明治7）年に生まれ、父と兄の相次ぐ死により、家業の造り酒屋を13歳の若さで相続した。武家出身の母からの薫陶により、恒吉は酒造りの現場に入り経験を積み、その中で苦勞と失敗を重ねた。当時、業界では科学知識が十分でなかったため酒の腐造（アルコール耐性のある乳酸菌により酒が腐ること）が頻発、恒吉はそのことに強く問題意識を持つようになった。そんな中、酒造調査のため伏見に滞在していた大蔵省醸造試験所の技師と交流する機会を得て、最新の学問知識に接したことが決定的な動機となり、1909（明治42）年1月、日本酒メーカー初の研究所「大倉酒造研究所」を創設した。研究の成果により酒の腐造問題を解決し、日本酒初の「防腐剤なしの酒」を商品化するなど、品質を飛躍的に向上させる先駆けとなった。その酒を、鉄道により東京を始め全国の市場へ販売すると共に、デザイナーを起用して駅売り用の「猪口付びん」を開発、鉄道に乗せて「月桂冠」の名を広く知らせた。これら数々の創造的な挑戦が、日本酒主産地への発展につながる契機となった。



「KANSAI」から、挑戦と創造の気持ちを呼び起こす

今、日本酒は、世界で「SAKE」として認知され、その消費も高まろうとしている。京都の伏見は、灘と共に日本の二大酒どころの一翼を担っており、関西圏では京都、兵庫、そして大阪、滋賀、奈良、和歌山など各地の銘醸蔵が酒造りに励んでいる。関西の酒どころは、フランスワインの一大産地、ボルドーの規模にも相当する広域に及んでいる。関西国際空港を通じて、多くのインバウンドのお客様をお迎えしており、ワイナリーや蒸留所巡りを旅の楽しみとされる方々が、各地の酒蔵を探訪されるのもおなじみの光景となった。

私共の月桂冠大倉記念館にも海外から多数の旅行者がお見えになっており、酒の味わいだけでなく、産み出す風土やブランドの歴史的背景に関心を持たれる方も多い。それがアウトバウンドでの人気（輸出した日本酒や海外生産による清酒の現地消費）にもつながっている。大倉恒吉の伝記を、まず英語で漫画化したのも、そのあたりに理由がある。次年度は漫画・大倉恒吉物語の日本語版をリリースする予定だ。全国の日本酒出荷の約半分を担う酒どころ「KANSAI」から、挑戦と創造の気持ちを社会に呼び起こし、私たち自身も鼓舞しながら仕事に取り組んでいきたい。

PR SJ in Media

● 10月1日(月) 『月刊広報会議』11月号

『月刊広報会議』11月号における当協会のコラムにおいて、2018年度の「PRアワードグランプリ」のエントリー募集についてとり上げられています。

今年度も応募部門は、「コーポレート・コミュニケーション部門」「マーケティング・コミュニケーション部門」「ソーシャル・コミュニケーション部門」「インターナル・コミュニケーション部門」「調査・研究部門」の5つが設けられ、多様な領域のPRの実践事例をエントリーできることが紹介されています。

また、今年度はPRアワードグランプリの特設サイトが開設され、応募概要やエントリー、審査の流れ、前回の受賞エントリー紹介も閲覧できることなど、また募集期間は10月24日17:00まで、12月11日には受賞の表彰式が行われることも、あわせて紹介されました。

(事務局・真部)

[記事協力 株式会社内外切抜通信社]

(株)内外切抜通信社の研究論文が 「日本広報学会研究奨励賞」を受賞

(株)内外切抜通信社の小山晋一氏と高田倫子氏、元社員で帝京大学文学部専任講師吉野ヒロ子氏（同社特別研究員）が取り組んだ研究論文「ネット炎上における情報・感情拡散の特徴」がこのほど、「日本広報学会研究奨励賞」を受賞しました。同論文は日本広報学会の学術論文集「広報研究」で発表されたもので、10月27日に開催された同学会全国大会で表彰されました。



この研究は、「PCデポ」「ラーメン二郎」の炎上事件を事例にして、どのように拡散されていくかを、調査データでトレースしたものです。炎上阻止のリスク管理の点からも参考になると評価されました。

筆者の一人、吉野氏は今年8月、「炎上についての研究」で中央大学から社会情報博士号を授与されています。

なお、炎上についての論文で社会情報博士号を取得したのは全国で初めてです。

つきましては、(株)内外切抜通信社のご好意で、研究論文の分冊を希望者（部数限定）に無料で配布いたします。

ご希望の方は内外切抜通信社までお問い合わせください。

問合わせ先：

koho2018@naigaipc.co.jp （担当：営業部 河原）

03-3208-5134

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

FAX 03-5413-2147

※ 禁転載